

しおかぜキッチン「夏休み企画」 東北電労宮古支部プレゼンツBBQ

8月17日(土)西ヶ丘地区センター開催に参加！

2019年8月17日(土)16時～「西ヶ丘地区センター」にて、しおかぜキッチンが開催された。

東北電労宮古支部では組合独自で社会貢献活動の一環として宮古地協の活動に賛同を頂き、昨年からご協力をいただいております。今回はBBQに食材提供と準備などに若手の組合員合わせ11名の参加があり、そのほか県職労宮古支部の高橋翔太さん、県北地協坂本敏美事務局長・二戸市生活支援員木村正一さん、釜石・遠野地協大槻忍事務局長にご協力を頂きました。

当日は台風が危惧されたが、太陽が照りつけ暑い日となりBBQには最高の天気、子どもが集まったところに最初に「スイカ割」、なななんと(°o°)！ 滝沢ブランドのスイカ～！大きなスイカですね！

早速子どもたちも目隠し、スイカ割スタート。その間BBQ準備が進む、子どもたちも棒をもって頑張って当てるものの、何と！スイカが中々割れない！滝沢スイカ強し！最後はひびが入ったところから子どもと一緒に引っ張って割る！中身は美味しそう～！みんな楽しんでいました。!(^^)! そろそろBBQへ、焼きあがった肉、ウインナー、野菜、焼きそば、きゅうりの漬物、トマトなど多彩の食材に囲まれ、笑顔が絶えないBBQとなった。

締めくくりは、花火大会！やけどに注意し花火ではしゃぐこどもあり、大人ありでしおかぜキッチン楽しく過ごして来た。

何より、しおかぜキッチンに集まる子どもは、ひとり親、貧困世帯など、家庭に問題を抱えた子どもが集う。

夏休みの思い出、子どもも大人も一緒になって楽しむことが一番の思い出ではないでしょうか。

ちなみに、杭田准教授・岩手大学生、県立大学生、三陸ひとつなぎ自然学校から柏崎さんと県外大学生2名が参加、テーブル・椅子等慈苑さんから提供を頂いた。(杭田准教授と柏崎さんは連合岩手「地域フォーラム」にご協力を頂きました。)

宮古地協からは、スイカ3個を提供しました。(^^)/

今後徐々に、色々な人が交わるよう勤めてまいります。

宮古地協地域貢献も頑張ります。!(^^)!





BBQも終わり、総仕上げの花火大会！
大人も子どもも満面の笑で楽しんでましたよ！・・・ひと夏の思い出作りができたのではないのでしょうか。(^_-) ☆
ご協力頂いた方々に感謝申し上げます。



ご協力頂いた方々に感謝申し上げます。

次回予定は9月21日(土)千徳公民館 16時からです。岩大生の方がホタテ飯を作り、振舞うそうです。その間、子どもとの交流を図りますのでご協力いただける方の参加をお待ちしております。

地協ニュース№28の続き、竹花邦彦市議の議会報告続報です。

質問 地域おこし協力隊について

隊員の活動を理解し地域づくりを共に考える仕組み・機会の創出を！

4月に「産直とれたろう」を中心とした田老地域活性化事業を担う地域おこし協力隊員が新たに委託された。本年度はさらに、「空家対策」や「インバウンド」対応で協力隊員を募集しており、一層の隊員受入れ拡大も期待される。一方で協力隊員の活動を行政や市民が支え、理解していく仕組み創出と、協力隊員の定住化を図ることが今後の課題と思われる。この認識に立ち次の点を伺う。

①協力隊員が活動して行くためには、地域住民との丁寧な信頼関係づくりと協働が大きなポイントとされる。隊員の活動は、すぐに成果が出るとは限らず、日頃の活動や取り組みの積み重ね、地域住民や地域との関係性とその変化を見ていくことが信頼関係を築き、協働していくうえで大事な点と考える。

その視点から、市民と地域が隊員の活動実践内容を知り、理解し、今後の地域づくりを共に考え、連携・協働していくことを目的に、隊員の活動報告会等を開催し、協力隊員と市民が意見交換等を行う場を設定すべきと思うがどうか。

②協力隊員の任期満了後の定住化に向けた今後の課題認識と具体的な対応等について市の考え方を伺う。

答 弁 山本市長

活動報告会等を開催していく

①本市では、現在2名の隊員が活動しており、今後さらに隊員の受入れを増やしていけるよう分野毎に検討を行っている。川井地区においては、地域住民と協働し加工品の開発に取り組むなど、地域経済活動の支援を行っている。田老地区においては、地場製品のPRや地域イベントの開催などの企画・情報発信を行うなど、どちらも地域と密着した活動を行っている。なお一層、市民の関心や理解が深まるよう、広報、ホームページ、SNS等での活動内容の発信を行うなど取組んでいく。また、活動の成果や状況に応じた活動報告会等を開催していく。

②任期満了後の定住化を促進するため、今年度新たに企業経費を予算化した。任期満了後の生活設計についても支援していく。



持続可能な開発目標(SDGs)

「SDGs (エス・ディー・ジーズ)」とは？

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) は、その頭文字を取ってSDGsと略すこともありますが、2015年9月の国連(UN)サミットで採択された2030年までに達成を目指す世界共通の目標です。17のゴール・169のターゲットから構成されています。

策定にあたって実施されたオンライン調査には世界中から延べ1,000万人以上が参加しました、政府や国連の代表者だけではなく、世界中の人びとが関わって決められたゴール・ターゲットです。



SDGsのポイント

ゴール8に「ディーセント・ワークの促進」が入り、世界共通の目標になりました。

発展途上国のみならず、先進国を含む国際社会全体が取り組むものとしてデザインされています。

「誰一人取り残さない」(leaving no one left behind) 社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に、統合的に取り組むこととされています。

全ての関係者(先進国、途上国、民間企業、NGO、有識者等)の役割とマルチステークホルダー・パートナーシップを重視しています。



国際労働運動の重点ゴール
17あるゴールのうち、国際労働組合総連合(ITUC)が決めている重点ゴールは次の6つです。

連合の「2018ディーセント・ワーク世界行動デー」重点テーマとしている。

「ディーセント・ワーク」とは

国際労働機関（ILO）のファン・ソマビア元事務局長が1999年に、ILOの理念・活動目標として示し、ILOの活動の主目標と位置づけられました。日本語では、「働きがいのある人間らしい仕事」と訳し、連合も目標達成に向けて全力で取り組んでいます。

今回は連合の取り組みについて解説します。

人間らしく働くって？～ディーセント・ワークの背景

公正なルールが確立されていないグローバル化が進んでしまうと人間らしく働けなくなってしまいます。世界には、労働の尊厳が軽視され、ディーセント・ワークからは程遠い地域・状況がいまだに存在していることから、1948年に国連で採択された「世界人権宣言」や同年のILO総会で採択されたILO第87号条約（結社の自由と団結権保護）でうたわれている人権に関する普遍的な理念や基準の再確認が必要です。

※ディーセント・ワークを実現するための連合の4つの取り組み

連合の取り組み①

「権利が保障される仕事」のために

- 安心して働き続けられるための **労働者保護ルールの堅持・強化**
- 労働者の健康・安全の確保のための **労働時間の見直し**
- 雇用における **男女平等と女性活躍の推進**
- **ワーク・ライフ・バランス社会**の早期実現

連合の取り組み②

「十分な収入を生み出す仕事」のために

- 適正な水準への **最低賃金の早期引き上げと監督行政の強化**
- **格差・貧困の解消**に向けた政策の推進

連合の取り組み③

「適切な社会的保護が あたえられる仕事」のために

- 持続可能な **社会保障改革の推進**
- 失業から良質な雇用に早期復帰・移行ができる **セーフティネットの構築および拡充**
- 「全世代支援型」 **社会保障制度のさらなる推進**

連合の取り組み④

「十分な仕事があること」のために

- 若年者、高齢者、障がい者の **雇用対策の強化**
- ディーセント・ワークを中心に据えた **雇用の拡大と雇用の質の回復**
- 非正規雇用労働者の **雇用安定化や処遇改善の強化**



「STOP!仕事における暴力とハラスメント」

「パワハラ(いじめ、嫌がらせ)」「セクハラ」「マタハラ」心・体への暴力…働く中で、1度でも経験したことのある人は多いのではないのでしょうか。

そして相談せずに我慢・あきらめてしまった人も、少なくはないはずです。

日本では

5割を超える人が職場に何らかのハラスメントがあると回答

パワハラ・セクハラを受けた、見聞きした人は4割以上

ハラスメントにより心身に不調をきたした人は3割、仕事をやめた人も2割

※連合「ハラスメントと暴力に関する実態調査」

仕事における暴力とハラスメントを規制・禁止する国際的な“決まり”を作る仕事ができなくなる、体調を崩す、自分など価値のない人間だと思ってしまう・・・。仕事での暴力やハラスメントにより損なわれるもの、失うものは甚大です。

そこで国際労働機関（ILO）では今、「仕事の世界における暴力とハラスメント」についての基準作りが議論されており、2019年でのILO条約採択を目指していました。2019年6月10日～21日、スイス・ジュネーブにおいて第108回ILO総会が開催され「仕事の世界における暴力とハラスメントの根絶に関する条約」は、ハラスメントに特化した初めての条約で、ILO総会本会議において出席者の圧倒的多数の賛成で勧告(206号)とともに採択されました(日本は労働側(連合)、政府は賛成、使用者(経団連)は棄権)。

連合も加盟している国際労働組合総連合 (ITUC)は10月7日をディーセント・ワーク世界行動デー(WDDW)としており、世界中での一斉行動を呼びかけています。

連合は、国際労働組合総連合 (ITUC)とともに、「STOP!仕事におけるジェンダーに基づいた暴力」キャンペーンを展開しています。

日本語版



英語版

